

# 研修報告

## 1. 研修名

電気学会 1993年度第9回放電研究会

## 2. 所属・氏名

技術部 電気・情報系システム開発班（電気電子工学科）

沓澤 幸成

## 3. 研修日時・場所

1993年8月3日（火）～4日（水）

北見工業大学

## 4. 研修目的

放電の分野における最先端の諸研究を学ぶ。

## 5. 今回の放電研究会の概要

電気学会は、明治21年に創立され、それ以来わが国の新しい科学技術の進歩発展に敏速に対応していく電気関係の総合学会として、電気、電子技術全領域にわたって活動してきています。放電研究会は、電気学会が、その目的を達成するためにおこなっている各専門分野をカバーする研究会のひとつで、毎年全国各地で年10回ほど開催され、各研究者（特に若手研究者）がそれまで進めてきた研究成果を、じっくりと時間をかけてを発表、討議する場として発展してきました。

今回、北見工業大学で開催された放電研究会には、全国の大学、高専等からおよそ60人が出席し、22本のレポートが発表されました。室蘭工業大学からは私の所属する研究室を中心に教官5人（中尾好隆教授、坂口 威助教授、伊藤秀範助教授、松浦勇二助手—以上電気電子工学科、佐藤孝紀助手—情報工学科）、技術職員1人（沓澤）、院生10人のあわせて16人が出席し、11本のレポートを発表しました。

## 6. 今回の放電研究会に出席して

私は、3年前に二部電気工学科から大学の改組にともなって電気電子工学科に配置換えになりました。また、電気電子工学科のなかで、中尾教授、坂口助教授、倉重助教授、伊藤助教授の研究、教育の支援を担当することになって2年しかたっておりません。そのため、中尾教授方の研究している放電の分野については、まだあまり理解しておらず、一度基礎からじっくり学びたいと思っ

ていました。今回、初めて中尾教授のかかわっている放電研究会に出席させていただき、放電の分野の最先端の研究を知る機会を得ることができました。そしてこの放電研究の成果がエレクトロニクスからエネルギーに至る広範な分野で応用されていること、またその応用分野がますます拡大されてきていることを知り驚きをおぼえました。と同時に、各種放電の研究がいろいろな研究者により古くからおこなわれ、その成果が各種産業ですでに応用されているにもかかわらず、そのメカニズムや諸特性がまだ十分に把握されていないことを知り、今後の研究がますます重要であると感じました。今後、基礎をしっかりと学び、いくらかでも各教官の仕事に協力していきたいと考えています。

最後に、技術部のみなさまや電気電子工学科をはじめとする全学教職員のみなさまのご支援、ご協力に感謝し、報告といたします。

#### 参考資料

- (1) 電気学会研究会資料「放電研究会」(ED-93-78~89)
- (2) 電気学会研究会資料「放電研究会」(ED-93-90~99)

以上